

お茶会を体験してみませんか。各流派様にお点前をご披露いただきます
 経験不要・予約不要。どなたさまもお気軽にお越しください

【日 時】毎月第3火曜日 12:00~16:00 (お菓子が無くなり次第終了。月曜が休日の場合は水曜日。8月はお休み)

【料 金】800円 チケットを正門・西門受付で販売します(入園料別途) ※10月以降の担当流派が変更になりました

4月16日(火)・3月18日(火) 遠州流茶道

遠州流茶道の神髄(奥義・本質)は、”綺麗さび。”と称される茶道体系を430年前に創り上げたことです。わび・さびの精神に<美しさ・明るさ・豊かさ・みやび>を加え、品格のある客観的な美を表現したもので、「思いやり」「おもてなし」の心を大切にしている今日の茶道の基礎となっています。流祖は、江戸初期の大名茶人で、徳川将軍家 茶道指南役、建築・作庭、和文化の総合芸術家としても活躍した小堀遠州公です。以来、日本を代表する格式ある大名茶道として現十三代小堀宗実家元に受け継がれ、洗練し昇華された魅力あふれる”綺麗さび・茶の湯の宇宙。”を寸分違わず今に伝えていきます。稽古照今(古を考えて今に照らす)、先人が築き上げた伝統を正しく受け継ぎ、現代に活かし、新しい創造を加え、時代と共に発展していく茶道と、その心を育てていきます。

5月21日(火) 南坊流

南坊流は、黒田藩士立花実山を流祖とする流派です。泉州堺南宗時の南坊宗啓によって利休の茶道の真義を書き記したという南坊録に、元禄三年(1690年)立花実山が出会い、全七巻を書き写し、爾来十三年余の間、利休・宗啓の茶の道を探求して、その奥義を究めたと伝えられています。以来、その茶風は、黒田藩に広まり今日に至っています。南坊流の特徴は、自らの心の修養を目的とし、実山居士が示された「徒に華を追うことなく、自らの修行としての茶道、求道者として地道な研修を真義とし、「清風自ら立つ」旨とする茶道を目指しています。

6月18日(火) 裏千家博多支部

12月17日(火) 裏千家福岡支部

裏千家家元は、千利休を始祖とする三代・千宗旦の第四子・仙叟千宗室の家系の十六代坐忘斎千宗室家元です。家元の指導方針に「茶の湯に出会う 日本に出会う」という教えがあります。十五代家元騰雲斎大宗匠は「一盃からピースフルネスを」の理念のもと世界各地で活動を続けておられます。荘子の言葉「君子之交淡若水」から命名された茶道裏千家淡交会(昭和十五年結成)は、全国17地区、165支部・2支所が設置され、また海外にも37か国11か所に海外協会・出張所が組織されています。福岡市には博多支部と福岡支部があり、茶禅一味の精神を根本とし、地域と共に茶の湯文化を更に豊かに育む活動を行っております。

7月17日(水)・2月18日(火) 表千家

千利休(1522~1591年)の茶の湯は、子孫にその道統が伝えられています。初代・千利休宗易、二代・少庵宗淳、三代・玄伯宗旦と続き、宗旦が隠居時に、四代・江岑宗左に屋敷、不審庵を継がせ、現代の表千家として伝っております。これ以降、代々の家元には「宗左」の名を受けて侘茶の心を引き継いでおります。茶の湯は「美味しいお茶をもって、主客ともに楽しみ、心を通い合わせること」に意義があり、日々のお稽古を通して、その古き心を学び、今日の生活に生かす道を求めることと考えております。

9月18日(水) 古儀茶道藪内流

藪内流は、藪内剣仲紹智を初代として今日まで十四代にわたって続いている流派です。流祖剣仲は、武野紹鷗のもとで茶の湯を学び、利休とは紹鷗門下の兄弟弟子の間柄です。紹鷗没後は、利休からも教えを受けたといわれています。爾来、今日まで紹鷗より受け継いだ作法と、利休によって完成された作法を厳格に守り伝えてきており、故に、古儀茶道と称しております。書院の作法と、小間の作法を両様に兼ね備え、ゆったりとした大きな「武家点前」の動作が藪内流の特徴の一つです。第二代真翁が西本願寺の茶道師家として迎えられて以来西本願寺との深い関係が続いています。初代剣仲は、古田織部の妹を妻として迎えたことから織部との親交も深く、茶道についても織部の影響を少なからず受けており、茶室 燕庵(国重要文化財)を始め、多くの茶道具を譲り受け今日に伝わっております。「正直・清浄・礼和・質朴」を流儀の精神としています。

10月16日(水) 大日本茶道学会

大日本茶道学会は、明治三十一年(1898年)、田中仙樵により創設されました。名称は、伝承されてきた数々の先人の茶道の精神性と技を近代的な環境に照らし合わせて研究・公開していくことで、後世に伝えていくことを目指した仙樵の理念に基づいています。大日本茶道学会では、一つ一つの意味を大切にしながら所作を行うことで、先人の伝えようとした心の原点を自分のものとし、実践できるようになることを一人一人の目標としています。総合芸術といえる日本伝統文化の茶道を地域の施設を連携して市民に啓蒙し、御縁を大切にしたいと願っています。今日、創立の精神に新しい風を吹き入れ、”アカデミックな香りのする”茶道流派として茶の湯の在り方を発信し続けております。

11月19日(火) 宗徧流

宗徧流は、江戸時代初期に活躍した茶人山田宗徧を流祖とする流儀です。宗徧流の茶は、利休正伝、すなわち宗旦の質素簡明を第一とした精神を厳しく伝える真の侘茶です。宗徧は、千利休の孫である千宗旦に茶の湯を学び、宗旦四天王の一人として、今日庵、不審庵、力圀斎等の号を与えられ、師の推挙により三河城主小笠原忠知の茶頭となり、長い間小笠原家に仕えました。小笠原家を辞した後も、江戸で茶道の普及、武家茶道に貢献し、赤穂義士討ち入りの際に吉良邸で茶会を催していたことでも有名です。

1月21日(火) 表千家不白流

表千家不白流は、川上不白を流祖として270余年の歴史を持ち、関東地区を中心に活動しています。江戸中期に京都中心であった茶の文化を江戸にも広めるべく、表千家七世如心斎が高弟の川上不白を江戸に向かわせたことに始まります。以後、代々の宗匠が受け継ぎ、住居が江戸の浜町にあったことから”浜町派”と呼ばれ、明治・大正期には錚々たる文化人たちの集う茶の道場であったことでも知られています。江戸時代、各大家との繋がりも深く、福岡においては久留米 有馬藩の茶頭を代々の宗匠が務め、武士階級のみならず一般市民にも茶の湯を伝え現在に至ります。一碗是道場。現在の家元八世宗順宗匠が大切にしている言葉の一つです。身も心も清め、澄み切った雲一つない青空の様な気持ちで一服のお茶を点て、客をもてなす、主客ともに相和することによる茶の道を説いておられます。

*2024.9.12現在. 予定は変更になる場合がございます

詳細はホームページでご確認ください

【お問合せ】大濠公園日本庭園 Tel092-741-8377

9:00~17:00 月曜休(月曜が休日の場合はその翌日)

